

2008 年度

科目名 日本文学を読む B	対象学科・学年 文学部全学科 1 回生 教育教福 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 古代の神話・説話・物語を読む		
授業の概要と目標 この講義で扱う日本文学とは、古代日本の神話や説話のことです。これらの作品には、当時の人々の暮らしの様子や世界観が活き活きと描写されています。こうした古代の文学作品を読み進めていく中で、古代日本社会とその文化への新たなイメージを獲得しましょう。そして、古典文学から得られる感動の世界に親しんでみましょう。		
評価方法 年 2 回のレポートに加えて随時課題を指示しますので、その提出物（40%）と日常の学習姿勢（20%）、出席状況等（40%）によって総合的に評価します。		
テキスト 講義時に配布する、教材・資料を用います。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 ◎古代説話・物語の世界（15 週） 日本最古の仏教説話集である日本霊異記を中心に説話を読み進め、古代文学の展開の様相を探ります。また、時間が許せば、平安初期の歌物語の世界も紹介していく予定です。 取り上げる説話・伝承は、「狐妻」「道場法師説話群」「聖徳太子と聖人伝承」「役行者説話」「動物報恩譚」等の予定です。 講義の性格上、作品を理解するために、時代背景や神社、仏閣、史蹟等の話題が多くなります。また、同じ理由で旧暦に由来する年中行事や祭礼等に関する知識も必要になります。各講義のはじめに、そうした古典文学に関連する周辺事項の解説や参考書籍等の紹介も行い、より深い作品理解への到達を目指します。		